

### 各事業所における処理の得意・不得意

事業所	北九州	豊田	東京	大阪	北海道
得意な処理対象物	トランス	◇ <b>重載トランス</b> については、施設スペースに比較的余裕がある利点を生かし、設備増強と操業の工夫により、順調に処理が進んでいる。			
	コンデンサ	◇真空加熱分離処理(VTR)をするため、設備に入るサイズのもの、 <b>特殊形状コンデンサ</b> であっても、処理に支障はない。  ◇手解体+洗浄処理(1期施設)と真空加熱処理(VTR)(2期施設)の両方の設備を有しており技術の使い分けができるため、 <b>PP(ポリプロピレン)コンデンサ</b> の問題は生じていない。		◇コンデンサ素子は洗浄処理をするため、 <b>PPコンデンサ</b> の処理に支障はない。	◇真空加熱分離処理(VTR)をするため、設備に入るサイズのもの、 <b>特殊形状コンデンサ</b> であっても、処理に支障はない。
	含浸物(紙・木等のトランス・コンデンサの内部部材)				
	二次廃棄物			◇液処理に水熱酸化分解方式を採用しているため、他の事業所の液処理設備では処理できない廃棄物( <b>粉末活性炭等</b> )の処理ができるポテンシャルがある。	
不得意な処理対象物	トランス	◆ <b>重載トランス</b> については、洗浄に長時間を要するため、処理できる台数が限られている。	◆ <b>トランス</b> の前処理工程については、洗浄方法の変更などの対策を講じてきたが、この結果廃洗浄油の増加により液処理設備の負荷が増大し、処理効率の低下が生じている。		
	コンデンサ	◆ <b>特殊形状コンデンサ</b> については、手解体をベースとした現行設備では作業環境の悪化の問題のため、解体作業ができない。	◆寸法外の <b>大型コンデンサ</b> については、限られた空間(除染室)を利用して処理を行っているが、作業環境悪化の問題があるため、作業時間を制限しての作業となっている。	◆真空加熱処理(VTR)における <b>PPコンデンサ</b> の破裂問題については、前処理等の操業の工夫により対応してきたが、処理効率の低下等がある。	◆寸法外の <b>大型コンデンサ</b> については、手解体をベースとした現行設備では作業環境の悪化の問題のため、現行設備での解体作業ができない。
	含浸物(紙・木等のトランス・コンデンサの内部部材)	◆処理(洗浄+真空加熱)の長時間化の問題については、洗浄工程の24時間化により対応を講じてきたが、これ以上の稼働時間の延長には限界がある。	◆コンデンサ素子のスラリーに含まれるアルミ等の析出により冷却器が閉塞するため、冷却器の追加等の対策を講じてきたが、処理量の増加に伴い閉塞頻度が増加し、安定処理の支障となっている。		◆洗浄回数、1回当たりの洗浄カゴ数、洗浄重量、真空加熱温度等の処理条件を変更する等の対策を講じてきたが、これ以上の効率向上には限界がある。
	二次廃棄物	◆二次廃棄物には、処理が困難なものや処理効率低下の要因となるものがある。  ◆真空加熱処理(VTR)に伴い発生するタールの分離に用いた <b>粉末活性炭</b> については、事業所内で再処理すると設備の閉塞、機器・配管の腐食等の懸念がある。  ◆VTR及び中間処理設備の機器・配管等の洗浄により生じる <b>アルカリ洗浄廃液</b> については、事業所内で再処理すると設備の閉塞、機器・配管の腐食等の懸念がある。	◆二次廃棄物には、処理が困難なものや処理効率低下の要因となるものがある。	◆二次廃棄物には、処理が困難なものや処理効率低下の要因となるものがある。	◆二次廃棄物には、処理が困難なものや処理効率低下の要因となるものがある。  ◆真空加熱処理(VTR)に伴い発生するタールの分離に用いた <b>粉末活性炭</b> については、事業所内で再処理すると設備の閉塞、機器・配管の腐食等の懸念がある。  ◆VTR及び中間処理設備の機器・配管等の洗浄により生じる <b>アルカリ洗浄廃液</b> については、事業所内で再処理すると設備の閉塞、機器・配管の腐食等の懸念がある。